

わたしたちの物語

赤塚安子さん(98歳) & 音喜多かおるさん

生まれたのは大正15年4月28日です。誕生日くると99歳。昔ね、昭和天皇の誕生日が4月29日で学校休みの前の日だったというんで、自今はあんまり気にしてないけど、友達は覚えてる。

出身はね、宮城県のね、仙台の方で西南地区なんですけどね。ええ、福島過ぎると一番先にあるとこなんですけどね。仙台は空襲にありましたけど、うちは蔵王に近いとこで、空襲には合わなかった。空襲警報などありましたけどね。

戦争中は女学校にあがって、ほとんど勤労奉仕で勉強なんかなかったですね。勤労奉仕で出征兵士の家に手伝いに行ったりなんかしてね。田舎だから畑の草を取ったりで女で学生だったから重労働みたいのは無かったですけどね。今考えてみると、あまり勉強してなかった。うふふふ。机に向かつて勉強するのはあんまり無くて。先生の都合もあったんでしょね。割烹の実習時間とか、食事の支度とか、和裁とか。学校での時間が少ないから、宿題みたいになって、家である程度までやってくるとか。

小学校の児童は少なかったんでしょね、昔から。分校が1つあって。本校だったんですけどね、だから、なんかっていうと、分校の生徒さんもそこ集まって、避難訓練とかしましたね。そんなのが多かったから、小学校の時も授業は少なかった。うふふふ。

私が女学校卒業してから疎開児童の寮母さんやってた。姉がね、学校の先生やってたもんだから。浅草のね、三島町の小学校の生徒が集団疎開していて、そこへ寮母として入ったんですよ。

その浅草が3月10日に空襲で焼けた時にね、両親亡くした子どもなん

かる人ぐらいおりましたからね。親戚が仙台にいたり、あっちの方に引き取られていった子どもさんもありましたけどね。かわいそうだったですよ。

寮母をやったのは二十歳になるときだったかな、私が。

子ども達は五年生から六年生になった時だったですからね。だから、8歳からの歳違う。寮母の仕事は終戦まで。夢中だったですね。

寮母の中で一番若かったから、子どもたちが寄ってきて。昔は遊びだつて道具がないでしょう。だからね、みんな車座になって、もの落として。そんな遊びだったですね。子どもたちは70人ぐらいおりましたよ。ほとんど親戚へ行かないで集団疎開だったみたいですよ。

たまにはお腹空かせて男の子なんか磨き粉食べたりしたこと。特に具合悪くしたりなんかして病院連れて行った子っていなかったですね。わりと元気な子どもさんだったですよ。

寮は旅行者なんか少なかったので、ホテルだったんですけどね。そこへ集団疎開したわけです。白石の町にね。

子どもたちは何年かに1回ぐらい、同窓会みたいなやつて、そこに招かれて、3回ぐらい行ったかな。そんな時、子どもがおりましたから、連れて行きました。

最近、同窓会はやってない、何十年となく。あんまり聞かないですね。皆さんももう90近くになると思いますよ。

そんな時の子どもが4人ずつと年賀状しています。うふふふ。1人の子どもは今年の年賀状にね、もうなんだか1日がつまらないとか、なんか書いてありましたけどね。体がいうこと利かないと。あーあ、同じだな、つて。

令和七年一月

